

コティングリー事件から
現代の妖精物語へ

妖精が 現れる！

「コティングリー妖精事件」
妖精を写した写真が
もたらしたものは？
幻想文学の立場から向き合う！



現地調査・評論・紀行

ドキュメント

小説

タニス・リー「エルフの眷属」

20頁

パトリシア・A・マキリップ「ウンディーネ」

高原英理「縞模様の時間」

ほか

エドワード・L・ガードナー

35頁

「妖精の写真——コティングリーでの撮影」

コティングリー村訪問記 ● 井村君江

ブックトゥムとしての妖精写真 ● 大岡淳

妖精写真とジョイスの『ユリシーズ』 ● 下楠昌哉

怪奇幻想文学としてのコティングリー妖精事件 ● 岡和田晃

なぜ十代の少女が妖精写真を撮影できたか ● 徳岡正肇

ほか